

社会政策学会 Newsletter No.2(通号No.25)2000.11.30

学会本部 埼玉大学経済学部 上井喜彦気付 URL <http://oohara.mt.tama.hosei.ac.jp/sssp/>
Tel&Fax048-858-3331 E-mail kamii@eco.saitama-u.ac.jp
事務センター 〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-7-2 大橋ビル (株)ワールドプランニング
Tel 03-3431-3715 Fax03-3431-3325 E-mail world@med.email.ne.jp

<p><目次></p> <ul style="list-style-type: none">・社会政策学会第101回大会開催校報告・非会員の大会参加費について・2001年度予算案・102回大会の企画について・103回大会の企画について	<ul style="list-style-type: none">・学会誌編集委員会報告・「社会政策学会(戦前)史」小委員会の改組について・第102回大会へのご案内・2000年~2002年期幹事会記録・承認された新入会員・自由論題の募集、その他お知らせ
---	--

社会政策学会第101回大会の終了

社会政策学会第101回大会は、10月28~29日、立命館大学衣笠キャンパスで開催されました。大会初日には臨時総会が召集され、総会後に懇親会が行われました。以下に浪江巖会員から寄せられました開催校の報告と臨時総会の内容を掲載します。

社会政策学会第101回大会開催校報告

立命館大学 浪江巖記

社会政策学会第101回大会は、10月28、29の両日、立命館大学衣笠キャンパスにおいて開催されました。お陰様で盛会のうちに大会を終えることができました。幹事ならびに担当の関西部会運営委員、報告者・討論者・座長各位のご尽力と会員の皆様のご協力に心より御礼申し上げます。

大会には総計で309名の方々の参加をいただきました。そのうち会員は264名で、非会員の参加は45名でした。なお、事前に出欠のご返事をいただいた会員は294名でした。

6つの書評分科会には総数229名の出席がありましたが、最も多かったのが91名、最も少なかったのが17名でした(分科会ごとの人数には重複があります)。

懇親会への事前の参加申し込みは86名でした。当日の取り消しが5名あった一方、当日の申し込み・参加者が30名あり、総計は111名の参加となりました。佐藤進会員に乾杯の発声の労をとっていただき、上井代表幹事からご挨拶をいただきました。

なお、大会1日目には、学会の臨時総会が開催されました(内容は別記記事をご覧ください)。

大会の準備過程を含めて、いろいろ不行き届きの点、ご不満な点も多々あったかと思いますが、ご寛恕のほどお願い申し上げます。今大会は、大会プログラムの企画と内容、予稿集発送を含む事前の案内、大会財政等について従来の方式を踏襲した最後の大会となりました。改革された新たな方式のもとで開催されていきます次回からの大会のいっそうの充実と盛会を祈念しまして、開催校からのお礼の挨拶ならびに大会の報告とさせていただきます。

臨時総会報告

2000年10月28日、第101回大会初日の午後5時30分から約100名の参加をえて、臨時総会が開催されました。予算案は、本来ならば社会政策学会会則第4章20条および21条に規定された定例の総会で審議されるべきも

のですが、会計年度(4月1日~翌年3月末日)と春の総会(5月末)の時期的ずれに起因する事務処理の困難を避けるために2000年度予算が昨年度秋の臨時総会で審議決定された経緯に鑑み、2001年度予算も臨時総会で審議することにしました。

議長 早川征一郎会員

<審議事項>

1. 会員の大会参加費について (代表幹事)
2. 2001年度予算案 (ウー幹事:臨時総会配布物はp.3掲載)

<報告事項>

1. 102回大会の企画について (森建資春季大会企画委員長)
2. 103回大会の企画について (玉井秋季大会企画委員長)
3. 学会誌編集委員会報告 (森廣正編集委員長)
4. 「社会政策学会(戦前)史」小委員会の改組について (代表幹事)

5. 102回大会開催校より (中央大学大会実行委員会 鷲谷徹幹事)

上記審議事項2題は承認されました。なお、個々の提案・報告の内容については、下記に担当者より報告します。

【非会員の大会参加費】

代表幹事

第100回大会の総会では学会改革ワーキンググループが提案した4つの改革案(ニューズレターNo.1(通号No.24)参照)が決定されたが、このうち大会参加費の徴収に関しては、「(イ)額:一般会員3000円、院生会員2000円。(非会員の傍聴者は1日2000円とする)。(ロ)徴収方法:会場受付で、(ハ)実施時期:企画委員会による企画がスタートする102回大会より」という提案中、非会員傍聴者の参加費の額はペンディングとなった。そこで、幹事会で再検討した結果、非会員の参加費を会員のそれより高くしても、低くしても、いずれも問題があるので、提案内容を以下のようにすることとした。

「非会員の大会参加費は、会員と同額(院生・学生2000円、一般参加者3000円)とする」

《2001年度予算案》

ウー幹事

2001年度予算(案)は以下の点に留意して作成された。その結果、今年度に対し当期収入において148万3,900円の増、当期支出において27万3,950円の減となり、概してこの間続いてきた繰入金のおい漬しによろやく歯止めがかけられ、財政の健全化をはかる上での足場が作られたといえよう。このような財政の改善は、最近の会費納入率の急増に示されているように、基本的には会員各位の努力の所産である。この場を借りて会員の皆様に感謝の礼を申し上げる。しかしながら、収入増の相当部分が新設の大会参加費で補われることとなっており、支出予算も当面の必要経費を切り詰めて作成されたことを考えると、財政事情は依然として厳しいといわざるを得ない。学会の活性化に必要な諸活動をバックアップするためにはさらなる財政の改善が要求されるといえよう。

<2001年度予算(案)作成上の留意点>

- 1) 会員数は、最近の入会の実績に基づき、970人(内、名誉会員20人、普通会员860人、院生会員90人)と見込んで収支予算を作成する。
- 2) 会費収入は、最近の納入の実績に基づき、納入率を93%と見込んで計上する。
(860人 * 0.93 * 10,000円) + (90人 * 0.93 * 7,000円)
- 3) 大会参加費は、春季大会に普通会员200人・院生会員100人、秋季大会に普通会员150人・院生会員50人の参加を見込んで計上する。
(200人 * 3,000円 + 100人 * 2,000円) + (150人 * 3,000円 + 50人 * 2,000円)
- 4) 大会開催費は、大会参加費徴収費用を見込み、各大会50,000円ずつ増額する。
- 5) 報告要旨集印刷費は、要旨集廃止の方針に従い、全額削減する。
- 6) 大会企画委員会活動費等は、大会企画の充実を期するため、前年度までの大会打ち合わせ交通費等の項と統合し、1回分の事前打ち合わせ交通費を含め、200,000円に増額する。
- 7) 部会活動費は、例年予算を下回る決算となっているが、今後の部会活動の活性化を期待し、例年より多少増額する。
- 8) 学会誌代金は、会員数と納入率に連動させる。
(20人 * 5,000円) + (950人 * 0.93 * 5,000円)
- 9) 選挙関連費は、300,000円を限度とし、WPに事務を委託する。
- 10) 学会賞関係費は、最近の実態を踏まえ、記念品代等を削減し、審査員交通費等を増額する。
- 11) 幹事会費は、活発な活動を支えるため、多少増額する。
- 12) ニュースレター発送費は、会員数に連動させる。
970人 * 90円 * 3回
- 13) 学会事務委託費は、会員数に連動させる。
(970人 * 900円) + 消費税
- 14) その他事務経費は、会費請求関連経費の増大やニュースレター製作費の増大等を勘案し、700,000円に増額する。

《102回大会の企画について》

2000年10月28日 社会政策学会総会報告

2000年11月21日 一部修正

文責: 春季大会企画委員長 森建資

1. 企画委員会活動報告

- (1) 6月17日第1回春季企画委員会開催
企画委員

森 建資(東京大学、企画委員長)
中川 清(慶応大学、企画副委員長、少子・高齢化部会)
市原 博(城西国際大学、労働史部会)
竹内敬子(成蹊大学、ジェンダー部会)
唐鎌直義(大正大学、社会保障部会)
上掛利博(京都府立大学、総合福祉部会)

- (2) 9月16日第2回春季企画委員会開催
2. 102回大会の共通論題について(*は非会員)
 - (1) テーマ 「社会変動と経済格差」
 - (2) 報告者 橋本 俊詔(京都大)*
大須 真治(中央大)
植田 浩史(大阪市大)
橋本 健二(静岡大)
 - (3) 10月14日に第1回の打ち合わせを行った。次回は2月3日を予定している。
3. 102回大会テーマ別分科会について(*は非会員)
 - (1) 労働史部会「ホワイトカラーの雇用管理の生成史」
 - 第一報告 若林 幸男(明治大学)*
「明治期三井物産のホワイト・カラーの教育・養成」
 - 第二報告 粕谷 誠(東京大学)*
「明治初期、三井の人事管理」
 - (2) 社会保障部会「変貌する地域社会と社会保障の今日的課題」
 - 第一報告 横山 寿一(金沢大)
「石川県珠洲市の調査から」
 - 第二報告 岡崎 祐司(仏教大)
「京都市美山町の調査から」
 - 第三報告 河合 克義(明治学院大)
「東京都港区の調査から」
 - (3) 少子・高齢部会「介護保険実施後のサービス供給実態と今後の展望」
 - 座長 高田一夫(一橋大)
 - 第一報告 乙幡 三枝子(国立市)*
「サービス供給の実態」
 - 第二報告 堀 千鶴子(城西国際大)
「地域におけるサービス供給のあり方」
 - (4) ジェンダー部会「社会的・経済的格差とジェンダー」
 - 座長 竹内 敬子(成蹊大)
 - 第一報告 橋本 撰子
「男女賃金格差と社会構造」(仮題)
 - 第二報告 足立 真理子
「グローバル化とジェンダー格差□NIDL(新国際分業)を超えて□」
 - (5) 「若年者の雇用問題」
 - 座長 仁田 道夫(東京大)
 - 第一報告 玄田 有史(学習院大)*
 - 第二報告 鈴木 宏昌(早稲田大)
 - 第三報告 上西 充子(日本労働研究機構)
 - (6) 「福祉国家と福祉社会」
 - 座長 武川 正吾(東京大)
 - 第一報告 平岡 公一(お茶の水女子大)
「市場化と福祉国家」
 - 第二報告 下平 好博(明星大学)
「グローバル化と福祉国家」
 - 第三報告 山森 亮(東京都立大学)
「反グローバリズム・反市場原理主義と福祉国家」
 - (7) 社会福祉改革における公私関係変容の構図
 - 座長 小笠原 浩一(埼玉大学)
 - 第一報告 北場 勉(日本社会事業大)
「社会福祉事業法における公私関係」
 - 第二報告 蟻塚 昌克(埼玉県立大)
「1980年代厚生行政のダイナミズムと公私関

係の変容」
 第三報告 柄本一三郎(上智大学)
 「社会福祉基礎構造改革における新しい公私関係」

なお上記 7 つの分科会の順番や各分科会での報告順序は未定。報告者、報告題目も変更の可能性あり。

<補> 代表幹事
 テーマ別分科会の企画に関して、9月に埋橋会員より次のような企画の申し出がありました。手違いによ

って、春季大会企画委員会および幹事会で審議することができませんでした。次回の春季大会企画委員会および幹事会で取り上げたいと思います。

テーマ「台湾の社会保障」(仮タイトル)
 発表者 1. 上村泰裕(東京大学・社院)
 2. 曾妙慧(台湾・銘傳大学)
 コメンテータ イト・ペング(関西学院大学)
 コーディネータ 埋橋孝文(大阪産業大学)

社会政策学会 2001年度予算(案)

自 2001年 4月 1日 至 2002年 3月 31日

【収入の部】

(単位:円)

項目	2001年度予算額	参考: 2000年度予算額	対前年度増減	備考
会費収入	8,583,900	8,450,000	133,900	
大会参加費	1,350,000	0	1,350,000	春季800,000、秋季550,000
雑収入	100,000	100,000	0	
利子収入	1,000	1,000	0	
当期収入計	10,034,900	8,551,000	1,483,900	
繰入金	1,221,287	2,610,287	-1,389,000	
収入合計	11,256,187	11,161,287	94,900	

【支出の部】

項目	2001年度予算額	参考: 2000年度予算額	対前年度増減	備考
大会開催費	1,700,000	1,710,000	-10,000	
春期大会	750,000	700,000	50,000	参加費徴収費用
秋期大会	750,000	700,000	50,000	参加費徴収費用
報告要旨集印刷費	0	210,000	-210,000	要旨集廃止
大会企画委員会活動費等	200,000	100,000	100,000	打ち合わせ交通費等を含む
部会活動費	300,000	250,000	50,000	
学会誌発行費	4,567,500	5,250,000	-682,500	
学会誌代金	4,517,500	5,200,000	-682,500	会員数に連動
編集委員会活動費	50,000	50,000	0	
選挙関連費	300,000	0	300,000	WP委託
学会賞関係費	250,000	250,000	0	
記念品代等	100,000	150,000	-50,000	
審査員交通費等	150,000	100,000	50,000	
業績リスト作成費	200,000	200,000	0	
名簿関連費	0	350,000	-350,000	
名簿作成費	0	200,000	-200,000	
名簿発送費	0	150,000	-150,000	
内外諸学会分担金	120,000	120,000	0	
本部経費	1,928,550	1,510,000	418,550	
幹事会費	50,000	25,000	25,000	
ニュースレター発送費	261,900	240,000	21,900	
学会事務委託費	916,650	945,000	-28,350	
その他事務経費	700,000	300,000	400,000	会費請求関連費・NL制作費等
予備費	300,000	300,000	0	
当期支出合計	9,666,050	9,940,000	-273,950	
繰越金	1,590,137	1,221,287	368,850	
合計	11,256,187	11,161,287	94,900	

注)会員数を、名誉会員20人、普通会员860人、院生会員90人、計970人と見込む。

《103回大会の企画について》

文責：秋季大会企画委員長 玉井金五

1. 本委員会は本年7月から活動を開始した。企画そのものの担当は、来年の秋の103回大会分からである。
2. 103回大会は、2001年10月20日(土)、21日(日)の両日に開催される。開催校は東北学院大であるが、会場は第1日目は東北学院大、第2日目は都合で東北大になる。
3. 103回大会の共通論題は「グローバル化と社会政策の課題」で固まりつつある。その他、103回大会から従来の書評分科会に加えて、自由論題のコーナーを設けるので、個人報告、テーマ別報告等が可能になる。

《学会誌編集委員会報告》

社会政策学会誌編集委員長 森廣正

春の大会から新しい編集委員会体制が発足しました。春以降の編集委員会の活動と今後の課題などについて、大きく2点についてご報告致します。

1. 学会誌編集・発行作業

10月に第2集委員会担当の学会誌第4号が発行されました。

第100回大会(明治大学)の報告を中心にした第5号(来年春発行)の報告原稿は、なお若干の原稿が未到着です。また、第5号の自由投稿欄への応募状況は、合計7論文でした。投稿論文も締切期日以降に到着するものが若干ありましたが、「締切期日の消印有効」としてすべて受理しました。現在レフリーの先生方に査読して頂いている段階です。ご多忙中にもかかわらず、お引き受け頂いた方々にこの場をお借りしてお礼申し上げますとともに、今後とも会員の皆様のご協力をお願い致します。なお、査読期間等々を考慮し、次回以降、投稿論文の締切期日を早める予定です。

2. 現在の編集委員会に課せられた大きな課題は、「学会誌改革」の具体化です。そのためにこの5月に第1編集委員会から2名、第2編集委員会から2名、計4名の編集委員からなる「学会誌改革ワーキンググループ」が発足し、9月23日には学会誌改革WG会議を開き、学会誌改革の4項目の具体化について検討しました。すなわち、

「英語論文の掲載を促進する」:「学会ニューズレター」に英語論文の投稿促進記事を掲載したりしました。また、英語論文は、投稿論文に限定せず、大会報告論文の英文での執筆・掲載が可能です。

「各論文に英文の論文要旨を添付する」: 来年秋に発行する第6号に掲載する論文から実施します。要旨の長さは、200単語をメドとし、執筆者ご本人に完成した英文原稿を提出して頂くことになりました。第6号以降、学会誌掲載論文(書評は除く)には、英文サマリーの添付が必要です。皆様のご協力をお願い致します。

「誌面内容の統一をはかる」: 春の号にも書評欄を、秋の号にも自由投稿欄を設けるなど、誌面統一の具体化に向けた努力を致します。

「出版社を一本化する」: これは学会財政問題との関連でも必要な改革課題です。学会誌の装丁を含め、出版社を一本化するための具体的な作業に入りますので会員の皆様のご協力をお願い致します。

学会誌改革を中心とする編集委員会の諸課題への取り組みは、投稿規程の改訂や、改革を実現した場合に想定される編集作業の検討、それに伴う機能的な編集委員会体制のあり方をも検討せざるを得なくなると思われます。

以上が、編集委員会活動の経過と今後の課題についての

報告です。会員の皆様のご意見やご提案などがありましたら、学会本部または編集委員会にお知らせいただければ幸いです。

《「社会政策学会(戦前)史」小委員会の改組について》

代表幹事

幹事会は、これまで隅谷三喜男、関谷耕一両名誉会員に委員をお願いして「社会政策学会(戦前)史」小委員会を置いてきたが、お二人のご尽力によって小委員会はその役割を全うできたものと判断し、近日中にこの小委員会を、戦後を含めた「社会政策学会史」小委員会に改組することに決定した。それは戦後がすでに歴史研究の対象となり、資料収集の上でも、聞き取り調査という点から見ても、学会史の整理が急がれるからである。幹事会としては、新しい委員会を3~5年程度の期限付き委員会とし、委員を募集して、最終的には100年史をまとめたいたいと考える。そして、委員会で作業内容と100年史の体裁を決めていただき、この事業を進めるために、科学研究費を取得するとともに基金を募ることにしたいと考えている。

《第102回大会へのご案内》

中央大学大会実行委員会(文責 鷲谷徹)

来る2001年5月26、27日に中央大学多摩キャンパスを会場として学会第102回大会が開催されます。私たち中央大学の大会実行委員会は会員の皆さんの多数のご参加を心から呼びかけるものです。

第102回大会は21世紀最初の大会であり、そうした記念すべき大会の開催をお引き受けしたことに私たちは荣誉とともに責任の大きさを感じています。

本学で大会が開催されるのは20年ぶり、前回は1981年(第62回大会)でした。当時のプログラムによりますと、共通論題が「現代日本の賃金問題」で、共通論題の報告と総括討論に1日半があてられ、分科会には初日の午後の3時間があてられ、テーマ別分科会1つと自由論題分科会2つが並行して開催されるというものでした。

予定されている第102回大会のスタイルはこれとは大きく変わり、第1日目の全てが分科会にあてられます。本年10月の時点で、すでに7つのテーマ別分科会の開催が決定しており、これに自由論題分科会(現在、報告者募集中)が加わることになります。学会員の多様な問題関心に応えることができる分科会となると考えています。第102回大会の共通論題は「社会変動と経済格差」で、第2日目に4つの報告と総括討論が集中して行われます。ゲストスピーカーを含む気鋭の論者の皆さんのすばらしい報告が期待されるところです。

中央大学で大会を開催することに関して学会員からときどき次のような質問を受けます。「中大では何か新しい校舎でも建てたの?」。残念ながら多摩キャンパスでは校舎に関してはとくに変化はありません。しかし、前回62回大会のときと大きく異なるのはアクセス面での大幅な改善です。本年1月に「多摩都市モノレール」が延長開通し、「中央大学・明星大学」駅が開業、今回会場が予定されている文学部棟は駅から徒歩3分となりました。多摩丘陵地帯の高台にある本学は、これまで、坂(メインストリートは通称「定年坂」)をえんえんと上らないと校舎に到達できないという「弱点」がありましたので、モノレール開通は大きな福音となりました。京王線高幡不動駅、京王相模線及び小田急多摩線多摩センター駅、JR中央線立川駅の各駅をモノレールが結んでいますので、多様なアクセ

スが可能です。

大会開催まであと半年、大会の内容は企画委員会のご努力でたいへん充実したものとなることはわかっています。私たち主催校の会員の努力によって「いれもの」を充実

させ、参加者の皆さんに心地よい雰囲気のある大会とすべく今後さらに奮闘したいと思います。多数の会員の皆さんのご参加を期待しています。

社会政策学会2000年～2002年期第4回～第7回幹事会報告

【第4回】

日時：2000年9月22日（金）17:00～19:15

場所：東京大学経済学部7階第1共同研究室

出席者：岩田、ウー、関口、玉井、中川、中原、二村、早川、三富、森建資、森廣正、森ます美、鷲谷、上井（以上14名）

議題

<報告事項>

1. 102回大会の企画準備

102回大会の共通論題のテーマと報告者については、春季大会企画委員会の案が第3回幹事会で提案されたが、本幹事会では森建資委員長よりレジュメが配布され、の共通論題準備の進行状況、テーマ別分科会の企画を中心に説明があった。その際、森委員長からに関連して、共通論題の打ち合わせのために上京する報告者の旅費を支給できないかという問題が提起された。この件について議論した結果、財政危機の折柄、会員の旅費支給を無条件に行うことはできないが、非会員については打ち合わせのための旅費および大会当日の旅費も支給するのが礼儀であることを確認した（予算案の審議を参照のこと）。

また、テーマ別分科会の企画については、幹事会として7つの企画を承認した。

なお、自由論題の募集については101回大会後にニューズレターで行うことを確認した。

2. 103回大会の企画準備

秋季大会企画委員長の玉井幹事より、第3回幹事会後の企画委員会の議論が紹介され、併せて103回大会のテーマについて報告があった。すなわち、具体的なテーマとしては、「グローバル化と社会政策の課題」という案があがってきた。他に「IT革命と労働社会政策」という案も出てきたが、現在、前者を元にグローバル化をキーワードにして検討を進めつつある。10月に開催する企画委員会では、共通論題を1日で行うこと、書評分科会の他に自由論題を行うことについて議論する予定だが、現在のところ異論は出ていない、という。

幹事会は以上の報告を了承した。

3. 101回大会開催校からの連絡

玉井幹事が欠席している浪江幹事からのFAXをもとに、101回大会開催校からの連絡を紹介した。

4. 102回大会開催校より

鷲谷幹事から102回大会開催校の準備状況について報告があり、幹事の中から自由論題は最低5教室確保してほしいという要望が出された。

5. 会員名簿の発行準備状況

代表幹事が新しい会員名簿の発行準備状況について、「ワールドプランニングとの間で、新しい学会名簿は101回大会前に会員に郵送することを確認するとともに、その体裁については、他の学会並に記載項目を増やす方向で検討している」と報告した。この報告に対し、名簿が現行のような体裁になっているのはコストを抑えるためだという意見が出され、幹事会としては、名簿の体裁の変更は余りコストアップにならない範囲で行うことを確認した。また、4名の所在不明者（神谷明、チョ斗変、都築耕世、内藤英二）の扱いについて従来のやり方を再確認した。

<審議事項>

1. 新入会員承認

次の7名の入会を承認した。

Charles Weathers(チャールズ・ウェザーズ)

大阪市立大学経済学部助教授

木村大成 名古屋大学大学院経済学研究科博士後期課程

倉田剛 法政大学大学院社会科学部研究科博士課程

田中重人 大阪大学人間学部助手

長澤紀美子 新潟青陵大学看護福祉心理学部助手

早坂聡久 法政大学現代福祉学部助手

吉田初恵 関西女子短期大学保健科助手

2. 101回大会総会議題に関して

(1) 2001年度予算案について

ウー幹事より、当期収入を9,771,000円（繰越金を加えると収入合計10,992,287円）、当期支出を9,880,000円とする2001年度予算案とその編成方針の提案があった。

審議に先だて、代表幹事が「決算と活動方針が春の総会で決定されることを考えると、前年秋に予算案を独立して審議・決定することには問題がないとはいえないが、会計年度の始まり（4月1日）と春季大会時の総会（5月末）との時間のずれを調整するために昨年度から予算案の審議・決定を秋季大会時に行うことに変更したという経緯を踏まえ、2001年度予算については2000年度予算と同様に秋に行いたい」と提起し、幹事会もこれを了承した。

ウー幹事の提案に関連して行われた審議は次の通りである。(イ)原案は収入の過少計上ではないか。例えば、秋季大会は院生の参加が一般会員より少ないので、一般、院生とも100人が参加するものとして計算しては（一般100人×3,000円+院生100人×2,000円=500,000）参加費を過小に計上することになる。(ロ)参加費徴収の目的は大会開催を独立採算にする点にあるのではない。従って、徴収した参加費を当該大会の開催校に配分するというのではない。誤解をさけるために、このことを秋の総会でも再度説明すべきだ。(ハ)打ち合わせ旅費は共通論題の非会員の報告者にしか支給してこなかった。非会員については、これまでも努力してきたように、交通費・弁当代の他、懇親会費も学会が出すべきだ。他方、会員については、財政危機の折柄、自弁でやってもらう必要があるのではないか。(ニ)選挙関連費は予算ではなく、実績を見て修正すべきだ。前回の選挙では20数万円かかっているのに、15万円では業務委託できなくなる。(ホ)テーマ別分科会の非会員の報告者については、旅費を部会活動費から出すこと。

幹事会では、以上の点を踏まえて作成し直した予算案を次回幹事会で審議することとした。

(2) 非会員の大会参加費

非会員の大会参加費については、会員と同額とし、一般3000円、院生・学生2000円とするという前回幹事会の結論を再確認し、これを幹事会提案とすることとした。

(3) 学会誌改革の具体化について

森廣正編集委員長からレジュメに基づき学会誌改革ワーキンググループでの検討状況について説明があり、これを受けて議論した。森報告のうち英語論文掲載の促進につ

いて、レフリーを確保する事が困難であることと関連して苦勞して掲載を呼びかける意味はあるか、これに対して科学研究費出版助成金を得るために英文の占める比率がある程度必要であり、外国人の会員も増えつつあるから投稿が期待できないわけではない等の意見が出された。

また、秋の学会誌に自由投稿欄を設置する件について、森委員長から、ワーキンググループでは秋の学会誌に自由論題用のスペースをつくるために書評の一部を春の学会誌に移す必要がある、投稿論文の締め切りを年2回とする必要がある、春・秋両方の投稿論文の審査を行う体制を整える必要がある等、解決しなければならない問題が多いという報告があった。これに対して、幹事の中から、秋の学会誌では大会の報告者、座長、討論者の論文をすべて掲載しているが、たとえば討論者の論文などは省いてもいいのではないかと、という意見が出された。

なお、森委員長から出版社の一本化については検討が進んでいないという報告があったが、これについては幹事からいくつも意見が出された。たとえば、この問題が財政的には一番重要なことだ。従来を担当出版社にとらわれず、学会誌の刊行で経験ある良心的な複数の出版社から見積もりを取るなど、具体化の作業に早く着手してほしい。現行のような本の体裁では価格が高くなるばかりか、科研費の学会誌刊行助成も得られないのではないかと、等である。

幹事会は、編集委員会が検討する際に以上のような意見を考慮してほしい、ということで一致した。

3. 日本学術会議経済政策研究連絡委員会委員の推薦

未決定の日本学術会議経済政策研究連絡委員会の新委員を遠藤公嗣幹事とすることとした。

4. その他

その他、専門部会の活性化が話題になった。その点に関わって、部会員リストを公開してほしいという意見が出された。また、当初の建前では、専門部会は独自の会則を作り、会費も独自に徴収する、そして、部会の自律的活動を補助するのが学会の役割ということになっていたはずだが、部会は段々と学会の下部機能的なものになってきた。専門部会の自律を促し、研究活動の活性化を図るために、部会のモデル規約でも作ったらどうか、という意見が出された。こうした部会活性化の具体策については、今後の幹事会で継続して議論していくこととした。

【第5回】

日時：2000年10月27日（金）14:00～17:00

場所：立命館大学修学館2階共同研究室3

出席者：池田、ウー、遠藤、伍賀、木村、関口、竹田、玉井、中川、中原、浪江、早川、三富、森建資、森廣正、森ます美、鷲谷、二村、上井（以上19名）

議題

<報告事項>

1. 現勢確認

2000年10月26日現在の現勢

普通委員 852、院生会員 82、名誉会員 15

なお、現勢確認の際、滞納していた会費を納入したにもかかわらず新しい会員名簿から名前がはずされているという苦情が出てきている、という意見が出された。この件に関しては、代表幹事が調査することとした。

2. 日本経済学会連合第2回評議員会報告

森ます美幹事から、表記の報告を受けた。

<審議事項>

1. 新入会員承認

次の2名の入会を承認した。

小松史朗 立命館大学大学院経営学研究科助手

益村真智子 東北学院大学経済学部助教

2. 臨時総会議題

(1) 非会員の大会参加費

この件に関しては、過去2回の幹事会で確認されたように、会員と同額にすることを幹事会提案とすることとした。

(2) 2001年度予算案

ウー幹事から、前回幹事会の議を踏まえて作成し直した2001年度予算案とその作成上の留意点が説明された。

これに対して、原案では雑収入が業績リストの販売実績に照らして2000年度予算との比較で9万円減の1万円しか計上されていないが、他の雑収入を考え、2000年度予算と同額にするという修正が加えられた。その他、関連していくつかの問題について審議した。例えば、(イ)昨年度の実績を見ると、部会活動費の決算が予算の半行程にしか達していない件について、年度始めに各部会に一律に何万円かを渡しきりにしてはどうか、という意見が出された。これについては、かつてそうしていたが活発に活動している部会は活動費が不足し、そうでない部会は予算消化のためにアリバイ的に会合を開くという問題があったし、実費支給が最近ようやく定着した段階だ、という意見が出され、各部会には従来通り実費を申告してもらうこととした。(ロ)学会賞関係費のうち記念品代は、受賞者が3人以上になると予算案では足りないという問題提起があった。これに関しては、必要な場合は予備費から出すこととした。

(3) 102回大会の企画

春季大会企画委員長の森建資幹事から資料をもとに企画委員会の活動報告と102回大会の企画の説明があった。その際、共通論題のテーマを最終的に「社会変動と経済格差」とすること、および共通論題にコメンテーターを置くこともあり得ることについて、幹事会の判断を求められ、幹事会としてこの点を含め企画案を了承した。

102回大会の自由論題の募集の締め切りを来年1月10日とすること、2002年春に開催される104回大会の共通論題のテーマを募集することを、総会で披露することについても決定した。なお1月10日の締め切りは早いので、すぐにもホームページとメーリングリストで自由論題(およびテーマ別分科会)を募集することとした*。また、104回大会の開催校を定めるために早急に各方面と折衝に入ることを確認した。

*私(代表幹事)の怠慢でホームページとメーリングリストで知らせるのが遅れましたので、独断になりますが、自由論題およびテーマ別分科会の募集の締め切りを1月20日にしたいと考えます。(このニューズレターの8頁を見てください)

(4) 103回大会の企画

秋季大会企画委員長の玉井幹事から103回大会の共通論題のテーマは「グローバルゼーションと社会政策の課題」に収斂しつつあるとの報告があり、併せて委員の紹介された。共通論題は100回大会から1日で行うことになっているが、秋はテーマ別分科会を置かないので、共通論題を1日にすると書評分科会と自由論題だけで1日分を埋めなければならない。これは困難ではないか。共通論題の企画に開催校の意見を入れられないか、等である。

幹事会では次のような意見が出された。企画委員会が開催校の要望も聞いて企画を決めることには何の問題もない。会員の関心が多様化しているので、2日にわたって共通論題の場に全ての会員を引き寄せようとするのは無理だ。テーマ別分科会も設定し、自由に応募できるようにしてはどうか。自由論題の場をそれに利用してはどうか。

幹事会は、委員長から秋季大会企画委員会に幹事会の意見を伝えてもらうこと、また要旨集廃止を28日の合同企画委員会でハッキリ決めることも求めることで一致した。

(5) 学会誌改革の具体化

森廣正編集委員長から来春刊行の第5号の準備状況と、100回大会の総会で決定された学会誌改革の具体化について報告があった。後者については、英語論文掲載を促進する件については、すでに投稿論文募集の際に英語論文の投稿を呼びかけた。今後の課題として、専門家に英文チェックを依頼する場合の予算措置が必要になるのではないかと問題がある。各論文に英文サマリーを添付する件については、来年秋に発行する第6号から実施できるように努める。英文のチェックは、執筆者が知り合いのネイティブに依頼するなど、自己責任でやってもらう。秋の学会誌にも自由投稿欄を設置する件については、「学会誌の内容の統一を促進する」という方向で検討しているが、もし実行するとすると編集委員会体制の抜本的改革が必要になる。出版社を一本化する件については、編集委員会は現在意見交換の段階である、との報告であった。

この報告に関連して、代表幹事が、秋の号を担当しているミネルヴァ書房から「もし一本化するために出版社から見積もりを取るのであれば、版の大きさ等、体裁を決めて欲しい」という連絡があった、と報告した。幹事会では出版社の一本化を中心に審議した結果、本の体裁をやめてA4版のジャーナルの体裁にすれば単価を下げられる。否、ジャーナルの体裁だと会員にしか売れないので、むしろ単価を上げなければならなくなる。ジャーナルを維持するためには、学会誌刊行基金を別途集めることを考える必要がある。本、ジャーナルのいずれの単価が安いかは見積もりを取らないとわからない、等の意見が出てきた。

幹事会としては、ワーキンググループで早急に学会誌の体裁を決め（本、ジャーナルの複数案でも可）見積もりを取れる準備をしていただくこととし、総会では森編集委員長が状況報告を行うことで合意した。

(6)「社会政策学会(戦前)史」小委員会の改組

代表幹事が、第3回幹事会で改組の方向性が確認された「社会政策学会(戦前)史」小委員会に関し、28日の臨時総会で「社会政策学会誌」小委員会の設置を提案したいと提起し、幹事会はこの了承するとともに、その提案内容を審議した。(審議結果は前掲提案内容参照)

(7)102回開催校の挨拶

102回大会開催校である中央大学の実行委員長は工藤会員である。実行委員長あるいは鷲谷幹事のいずれかが挨拶することを確認した。

(8)議事次第

議事次第と時間配分を決め、幹事会推薦の議長候補者も決定した。

3.長期滞納者の退会処理について

幹事会は、2年以上の会費滞納者にワールドプランニングから督促してもらうとともに、幹事が声をかけて会費納入を促すこととした。その結果を待って、3年度以上の会費未納者については会則第9条に照らして退会処理の議に付することとした。

4.名誉会員の推挙に関して

名誉会員の推挙は一年分をまとめて来春102回大会で行うこととし、名誉会員の候補者リストをもとに次回以降の幹事会で審議することとした。

5.名誉会員の処遇に関して

(1)名誉幹事の処遇について以下の点を確認するとともに、その内容を名誉会員の方にアナウンスすることとした。会則第10条の規定に従い、希望があれば学会誌は会員価格でおわけする。しかし、大会に関してはご招待するという立場から、大会参加費と懇親会費は頂戴しない。

(2)今春名誉会員になられた小川政亮、佐野稔、島崎晴哉、戸木田嘉久、内藤則邦、星島一夫の各氏は今年度の会費を納入されている。その処理に関し、寄付金とさせていただきますようお願いすることとした。

6.その他

大会後の幹事会は2001年1月27日(土)午後2~5時に開催することとした。

【第6回】

日時:2000年10月28日(土)12:00~13:00

場所:立命館大学以学館2階23教室

出席者:ウー、遠藤、木村、斎藤、下山、関口、中川、中原、早川、牧野、三富、森ます美、二村、上井。

議題

<審議事項>

1.新入会員承認

次の者の入会を承認した。

橋本好市 PL学園女子短期大学幼児教育学科専任講師

2.部会の活性化について

部会の状況を出し合った結果、労働史部会・総合福祉部会以外は大会企画を除いて休眠している専門部会が多いこと、これに対して地域部会はいずれも10~25名規模で定例的に研究会がもたれていることが判明した。専門部会の活性化が重要課題であることを確認して、翌日の幹事会でも審議することとした。

【第7回】

日時:2000年10月29日(日)12:00~13:00

場所:立命館大学以学館2階23教室

出席者:木村、斎藤、下山、関口、中川、中原、浪江、早川、牧野、三富、森建資、森ます美、鷲谷、二村、上井(以上15名)

議題

<報告事項>

代表幹事が、10月28日の第1回学会賞選考委員会で石田光男会員が委員長に選ばれ、併せて選考スケジュールが確認されたと報告した。

<審議事項>

1.新入会員承認

次の2名の入会を承認した。

丹波史紀 日本福祉大学大学院社会福祉学研究科博士
後期課程

高井葉子 城西国際大学経営情報学部講師

2.部会活動の活性化

前日に引き続き審議した結果、次のような意見が出た。大会企画という点から見ると、会員の専門分野別構成と専門部会とはズレがあるので、専門部会の代表をもって春季大会企画委員会を構成している点を見直す必要がある。労働史部会以外にも、伝統的に多数の会員が専門分野としてきた労働関係の専門部会が必要だ。専門部会の活性化のために実働部隊による世話人体制を確立することがポイントである。休眠しているいくつかの専門部会に対して、幹事会として体制の再編成を勧告すべきだ。何年にもわたって企画を出せないような専門部会は自動的に消滅するというような基準を作ってはどうか。部会の考え方に幅があるので、モデル規約をつくってはどうか。

以上の意見を踏まえ、次回以降の幹事会でも審議することとした。

承認された新入会員

氏名	所属	専攻	推薦者
< 9月22日の幹事会での承認 (7名) >			
Charles Weathers(チャールズ・ウェザーズ)	大阪市立大学経済学部助教授	日本労使関係	玉井金五 福原宏幸
木村大成	名古屋大学大学院経済学研究科博士後期課程	労働経済論 制度経済学	竹内常善 福澤直樹
倉田剛	法政大学大学院社会科学部研究科博士課程	少子高齢化問題	大山博 松崎義
田中重人	大阪大学人間学部助手	社会学	首藤若菜 永井暁子
長澤紀美子	新潟青陵大学看護福祉心理学部助手	老人福祉 高齢者ケア	小山秀夫 佐藤進
早坂聡久	法政大学現代福祉学部助手	社会福祉学	大山博 松崎義
吉田初恵	関西女子短期大学保健科助手	医療福祉	梅澤隆 白木三秀
< 10月27日の幹事会での承認 (2名) >			
小松史朗	立命館大学大学院経営学研究科助手	生産システム論	浪江巖 横山政敏
益村真智子	東北学院大学経済学部助教授	総合政策論	森健一 斎藤義博
< 10月28日の幹事会での承認 (1名) >			
橋本好市	PL学園女子短期大学幼児教育学科専任講師	社会福祉(障害児・者福祉)	服部良子 森詩恵
< 10月29日の幹事会での承認 (2名) >			
丹波史紀	日本福祉大学大学院社会福祉学研究科博士後期課程	社会福祉理論 公的扶助論	真田是 高島進
高井葉子	城西国際大学経営情報学部講師	社会学 女性学	森田明美 流石智子

☆重要☆
第102回大会自由論題
募集のお知らせ

- ・社会政策学会第102回大会は2001年5月26日(土) 27日(日)に中央大学多摩キャンパスで開催されます。共通論題は「社会変動と経済格差」です。
- ・そこで、例年通り、自由論題を募集します。**自由論題報告希望者は**、論題、所属(詳細に) 氏名、連絡先(住所、電話、FAX、E-mail)を明記の上、必ず**200字程度のアブストラクト**をつけて下さい。その際、参考のため、次の専門分野別コード番号を付して下さい。
 1. 労使関係・労働経済
 2. 社会保障・社会福祉
 3. 労働史・労働運動史
 4. ジェンダー・女性
 5. 生活・家族
 6. その他
- ・一方、**テーマ別分科会**の設定がすでに決定されている専門部会・会員、および新たにテーマ別分科会の設定を希望する会員は、分科会のタイトル、座長・コーディネーターの名前と連絡先(住所、電話、FAX、E-mail) 報告者名を明記して、**設定の趣旨(200字程度)**、**各報告者の200字程度のアブストラクト**を送付して下さい。
- ・いずれも学会本部あるいは春季大会企画委員長宛にE-mailもしくは郵便、FAXをお願いします。

締め切り：2001年1月20日(土) 必着

(先述のように幹事会決定の締め切り日より10日延長してあります)

お問い合わせはE-mailにてお願いします。

kamii@eco.saitama-u.ac.jp

<お知らせとお願い>

1. 新名簿への記載漏れの会員の件
 幹事会でも問題になりました新名簿への記載漏れの会員の方に、調査しました結果、次のような事情が判明しました。すでに何度もニューズレターに記載されてきましたが、伊藤前代表幹事時代以来、ワールドプランニングを通して長期会費滞納者に対し督促を強めるとともに、会員資格を継続するかどうかの意思確認を進めてきました。今回、新名簿から名前が消えた会員の方たちは、再三の督促にもかかわらず会費を納入されなかったか、会員資格の継続意志を表明されなかった方々の方です。
 事情は以上の通りですが、なかには無自覚のうちに退会扱いになった方もいらっしゃるようです。そういう方、あるいはそういう方をご存じの会員は、本部までご連絡下さい。
2. 所在不明の会員の件
 次の方たちは所在不明で連絡が取れません。ご存じの方は本部あるいはワールドプランニングまでご連絡下さい。
 チョ斗雙、都築耕世、内藤英二
3. 学会賞への自薦・他薦
 年明けには学会賞の選考が始まります。対象になるのは2000年中に発表された図書・論文です。自薦・他薦を問いませんので、受賞に値すると考える作品がありましたら、本部あるいは選考委員宛に送付して下さい。
4. 第104回退会の共通論題のテーマ
 2002年度春に開催される104回大会の共通論題のテーマを募集しますので、本部までお寄せ下さい。
5. 九州部会選出の秋季大会企画委員の交替
 事情により、九州部会選出の秋季大会企画委員が坂脇昭吉会員から阿部誠会員に変わりました。1月の幹事会で正式に承認しますが、皆さんからの九州部会関係の連絡は、今後は阿部委員宛にお願いいたします。